東京大学と福井県のジェロントロジー共同研究

○東京大学と福井県は、「高齢者の方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会」の実現に向け在宅医療の推進や健康づくり等を柱とした共同研究（第１期・第２期）を進めてきた。

○これまでの共同研究の成果を踏まえ、本県の在宅医療や健康づくり施策の更なる発展を目指し、平成29年度より、第３期の共同研究（平成29年６月～）を実施してきた。

	第Ⅰ期研究（H21.4～23.3）・ 第Ⅱ期研究（H23.9～27.3）	第Ⅲ期研究（H29.6～）
在宅ケア	実施期間：(坂井地区H22～26)→(全県H26～29) テ ー マ ：患者が安心して在宅ケアを受けられる体制の実現 患者が安心して在宅ケアを受けられる体制の実現を目指し、坂井地区をモデルとして、ワンストップでの医療・介護サービスの提供、主治医・副主治医制の導入、急変時の受け入れ病院の確保、ＩＣＴを活用した患者情報の共有等、医療と介護の連携によるケア体制を全国に先駆けて整備 成　　果：坂井地区においては、他地区に比べて、医療・介護を必要とする後期高齢者のうち、自宅で生活する方の割合が９ポイント高く、病院に入院している方の割合が８ポイント低い	実施期間：(坂井地区H29～)→(全県R２～) テ ー マ ：訪問診療の供給量を増加させる方策の検討 今後見込まれる在宅医療のニーズの増加に対応するため、先進的な在宅医療体制が整った坂井地区において、訪問診療の供給量を増加させる施策を検討 ・在宅医の診療体制等に関する実態調査を実施し、調査結果から算出した訪問診療の供給可能量を医師会と共有 ・供給可能量を増加させるため、在宅医の負担を軽くする仕組みづくりを検討・実施
健康づくり	実施期間：(全県H21～26) テ ー マ ：レセプトデータに基づく健康づくり 東京大学において医療・介護レセプトデータと特定健診の結果を結合させたデータベースを構築し、県民の健康状態に関する地域ごとの特徴を分析 成　　果：「わがまち健康推進員」を市町に配置（約3,000人）し、高血圧や肥満が多い市町では、減塩・減量運動を実施する対策を講じるなど、各市町の特色に応じた健康づくりを展開	実施期間：(坂井地区H29)→(全県R元～) テ ー マ ：フレイルにならないための高齢者の健康づくり 「わがまち健康推進員」を含めた市民サポーターと共に、東京大学が提唱するフレイル予防プログラムを実施し、高齢者の自発的な健康づくりを促す ・高齢化により心身の活力が低下した状態であるフレイルの兆候に早期に気づくためのチェックの実施 ・気づきと定期的チェックによる自発的なフレイル予防活動(運動・栄養・社会参加)の促進 「フレイル（虚弱）」…　自立した生活はできるが高齢化による心身の活力の低下がみられる状態のこと。早期にフレイルの兆候に気づき、生活習慣を見直すことで健康な状態に戻ることが可能とされている。